

2019年度(平成31年度)学校評価自己評価表

城北中学校区	校番 2	福山市立城北中学校
最終更新日	2019年(平成31年)4月1日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	知識・理解、思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ力、他者とのかかわる力、社会貢献力、自己形成力
学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校校区内で連携を深め、共通の取組で成果をあげている。目標が達成できていないものについては取組の進捗状況を細かく把握し課題克服に向けてPDCAサイクルに則り実践する。	全国学力・学習状況調査の結果、小学校は県平均を概ね上回り、中学校は県平均程度となっている。また、校区共通で取り組んだことで、「あいさつ」、「地域行事参加」などの意欲は向上してきている。睡眠時間、学習時間の確保がメディアの使い方と併せて課題となっている。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	じっくり考え、はっきり表現し、くり返し粘り強く挑戦する児童・生徒 (J) (H) (K)
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣や家庭学習の目安を示した校区スタンダードの取組 毎月15日にあいさつデーとして校区合同挨拶運動の取組 中学校のテスト期間に合わせて家庭学習頑張り週間とノーメディアデーの取組 合同行事・乗り入れ授業・「総合的な学習の時間」交流会の取組

III 自校

ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学ぶ力	他者とのかかわる力	社会貢献力	自己形成力
福山市のリーダー校として、学びの変革を推進し郷土福山を愛する生徒を育て、地域・保護者から信頼される校区・学校にする。また、基礎的学力の定着や自ら考え学ぶ生徒を育てるとともに、心の育成を図り、城北中生徒としての品格と誇りを身につけ、「城北中で学んで良かった」と評価される学校をめざす。	めざす子ども像	学習したことを自ら語れる。	根拠を持って、正しい判断をしている。よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方をしている。自分の考えを相手分かりやすいように伝えられる。	自ら課題を見だし、解決しようとしている。	他者と協力して、課題を解決しようとしている。他者との関わりを通して、自らの考えを深めたり変えたりしている。	他者との共存の中で、集団の利益になることを考え実践しようとしている。	前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとしている。自らに自信を持っている。
学校教育目標	研究	教科等	総合的な学習の時間				
生徒の主体性を育み、一人一人の願いをかなえる城北教育	めざす授業の姿	主題・内容等	主体的な学びの創造 —自ら考え学ぶ授業づくりを通して— ・生徒に育みたい資質・能力を明確にした単元開発と授業実践				
現状			<ul style="list-style-type: none"> ①自ら関心・意欲を持って課題を発見し、解決法を考えられるような導入の工夫をしている。㊦ ②課題解決に向け、自らの考えをまとめるために個人でじっくり考えることができるよう時間の確保や手立てが講じられている。㊧ ③グループやペア等の活動を通して、協力して課題解決に臨んだり、他者の考えをもとに自らの考えを広げたり深めたりする場面が設定されている。㊨ ④地域の課題に自ら目を向け、自分にはできないかを考え行動化させている。㊩ ⑤振り返りでは、学習過程における成長を評価するとともに、更なる追求課題を見いださせている。㊪ ⑥学んだ知識や技能について、文章でまとめさせている。㊫ 				
<p><児童生徒></p> <p>【成果】</p> <p>①資質・能力を意識した学習活動の高まり</p> <p>②地域貢献を意識した活動の高まり</p> <p>【課題】</p> <p>①「自信を持つ力が高められた」と実感をしている生徒が少ない。</p> <p>②体力づくりでは、握力とハンドボール投げが弱い。</p> <p><授業></p> <p>【成果】</p> <p>①全教職員が「主体的な学び」を目指した単元の開発と実践を行った。</p> <p>②全国学力・学習状況調査学習及び学力調査等の分析から課題に対応した授業改善を行った。</p> <p>【課題】</p> <p>① 生徒アンケートにおいて「授業が分かりやすい」の項目で80%以上の肯定的評価であった教科が33教科中(3学年合計)28教科であった。</p>							

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立城北中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価
5	「主体的な 学びの創造」 による、自ら 考え学ぶ生徒の 育成と基礎学力の 定着	★	継続	★「資質・能力の 育成」を目指した 全職員共通の取 組の実施	○本校で設定し た「資質・能力」 のルーブリック の結果をもとに、 教科、分掌、学年、 部活動等において 重点目標を作成し 実行する。	○生徒アンケート において、資 質・能力に係る質 問項目で“グレー ト”の自己評価の 割合を全て3 0%以上にする。 (※昨年度、3 0%未満1項目)								
			★	継続	★「学力の向上」 を目指した学力 調査による分析 と対策の実行	○学力調査等の 分析により、課題 となった問題に ついて、教科会を 中心に学び直し を行うための計 画を立て実行す る。	○全国学力学習 状況調査(3学 年)正答率にお いて全国平均以 上とする。 ○標準学力調査 (1・2学年)正 答率において全 国平均以上とす る。							
4	主体性の育 成		継続	ボランティア活 動の啓発と推進	○学校内外を問 わず、ボランティ ア活動を企画、実 行するとともに、 参加者を把握し、 評価する。	○ボランティア 活動への参加者 の割合を90% 以上にする。 1学期70% 2学期80% 3学期90%								
			継続	自分の役割を自 覚し、主体的に行 動できる生徒の 育成	○生徒一人ひと りが活躍できる 学級活動、委員会 活動、部活動、学 校行事等を活性 化する。	○生徒アンケート において、「自 分の役割を自覚 し、主体的に行 動することができる」 の項目での肯 定の評価を9 5%以上にする。								

4	「主体的な学びの創造」による、たくましく生きる体力の向上	継続	自ら進んで体力向上に取り組む生徒の育成	○新体力テストの種目を定期的に計測し数値を把握する。	○握力とハンドボール投げの校内平均を全国平均以上にする。													
5	授業力の向上	継続	「主体的な学びの創造」を目指した単元開発と授業実践	○「課題発見・解決学習」の学習過程を位置付けた、単元改善と授業実践を行う。(各教科または総合的な学習の時間で1回以上)	○生徒アンケートにおいて、「課題発見・解決学習」に係る質問と「総合的な学習の時間」に係る質問項目で肯定的評価を85%以上にする。													
		新規	授業ユニバーサルデザインを意識した授業の実践	○授業指標を明確化し、校内授業交流週間とブロック研修で授業の相互評価を実施する。	○生徒アンケートにおいて、教科毎の授業力に関わる質問の肯定的評価を全教科各項目の平均80%以上にする。													
4	地域貢献できる生徒の育成	継続	「総合的な学習の時間」での地域貢献活動の充実	○「総合的な学習の時間」前期単元(地域理解・社会貢献)の更なる改善と実践を行う。	○生徒アンケートにおいて、「地域貢献度」に係る質問項目で肯定的評価を80%以上にする。													
		継続	地域社会における自校の使命の遂行	○学校だより、生徒指導だより、学年だより、HP、参観日等で情報発信を定期的に行う。	○保護者アンケート「城北へ行かせてよかった」の項目の肯定的評価を95%以上にする。													

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。